

ごんぎつね ④

名前	

「ごんぎつね」を読みながら、ことばのきまりを勉強しましょう。

①から⑤までのひらがなをへくのなかに入れながら読んでみましょう。

【例】

これは、私が小さいときに、村の茂平もへいというおじいさんへからくきいたお話です。

むかしへはへ、私たちの村へくちかくの、中山というところへにへ小さなお城へがへあって、中山さまというおとのさまが、おられたそうです。

- ①が
- ②に
- ③の
- ④から
- ⑤は

【一】

月へくいい晩でした。ごんは、ぶらぶらあそびへく出かけました。中山さまのお城の下へく通ってすこしくくと、細い道の向うへく、だれか来るようです。話声へく聞えます。チンチロリン、チンチロリンと松虫が鳴いています。

- ①が
- ②に
- ③の
- ④を
- ⑤から

【二】

ごんは、道の片がわにかくれて、じっとしていました。話声へ～だんだん近くなりました。それは、兵十と加助カサキというお百姓でした。

「そうそう、なあ加助」と、兵十がいました。

「ああん？」

「おれあ、このごろ、とてもふしぎなことへ～あるんだ」

「何が？」

「おっ母が死んでからは、だれだか知らんが、おれへ～栗やまつたけなんかを、まいにちまいにちくれるんだよ」

「ふうん、だれが？」

「それがわからんのだよ。おれへ～知らんうちに、おいていくんだ」

ごんは、ふたりのあとをつけていきました。

「ほんとかい？」

「ほんとだとも。うそと思うなら、あした見に来いよ。その栗へ～見せてやるよ」

「へえ、へんなこともあるもんだなあ」

それなり、二人はだまって歩いていきました。

- ①が ②に ③の ④を ⑤は

【三】

加助がひよいと、後を見ました。ごんへびくつとして、小さくなったたちどまりました。加助は、ごんには気がつかないで、そのままさっさとあるきました。吉兵衛というお百姓の家まで来ると、二人はそこへは行っていききました。ポンポンポンと木魚の音がしています。窓の障子へあかりがさして、大きな坊主頭へうつつて動いていました。ごんは、

「おねんぶつがあるんだな」と思いながら井戸のそばにしゃがんでいました。しばらくすると、また三人ほど、人がつれだつて吉兵衛の家へは行っていききました。お経へ読む声がきこえて来ました。

- ①が ②に ③へ ④を ⑤は

答え

【一】

月へのいい晩でした。ごんは、ぶらぶらあそびへに出かけました。中山さまのお城の下へを通ってすこしくと、細い道の向うへから、だれか来るようです。話声へが聞えます。チンチロリン、チンチロリンと松虫が鳴いています。

- ①が ②に ③の ④を ⑤から

【二】

ごんは、道の片がわにかくれて、じっとしていました。話声へはだんだん近くなりました。それは、兵十と加助カサキというお百姓でした。

「そうそう、なあ加助」と、兵十がいいました。

「ああん？」

「おれあ、このごろ、とてもふしぎなことへがあるんだ」

「何が？」

「おつ母が死んでからは、だれだか知らんが、おれへに栗やまつたけなんかを、まいにちまいにちくれるんだよ」

「ふうん、だれが？」

「それがわからんのだよ。おれへの知らんうちに、おいていくんだ」

ごんは、ふたりのあとをつけていきました。

「ほんとかい？」

「ほんとだとも。うそと思うなら、あした見に来いよ。その栗へを」
見せてやるよ」

「へえ、へんなこともあるもんだなあ」

それなり、二人はだまって歩いていきました。

- ①が ②に ③の ④を ⑤は

【三】

加助がひよいと、後を見ました。ごんへは「びくつとして、小さくなってちどまりました。加助は、ごんには気がつかないで、そのままさつさとあるきました。吉兵衛というお百姓の家まで来ると、二人はそこへは行っていききました。ポンポンポンと木魚の音がしています。窓の障子へは「あかりがさしていて、大きな坊主頭へが」うつって動いていました。ごんは、

「おねんぶつがあるんだな」と思いながら井戸のそばにしゃがんでいました。しばらくすると、また三人ほど、人がつれだつて吉兵衛の家へは行っていききました。お経へを」読む声がきこえて来ました。

- ①が ②に ③へ ④を ⑤は